

インターバンクの声（2017 年 11 月 21 日）

週明けの外国為替市場は、東京、ロンドン、ニューヨーク市場がともに新規の材料に乏しかったものの、一日を通してみると、ユーロ、ポンド、円の高値と安値の値幅が 100 ポイント近くになる不思議な日だった。東京の朝、いきなり大きく動き出したのがユーロだった。ドイツの連立協議決裂を受けてユーロが急落、一時間もしないうちに 70 ポイント超も下落した。しかし、東京の夕方には下げていたドイツ株が上昇し始めてリスク回避も一服、ユーロは「行って来い」状態で東京朝の急落前の水準まで買い戻された。このユーロの買戻しと同時刻に動いたのがポンド。欧州市場の朝から金の話で生臭かったが、メイ英政権が欧州連合離脱交渉で EU 側から要求されている「手切れ金」を上積みする方針に傾いたと報じられ、1.32ドル付近から 80 ポイントほど買い進まれた。ただ、この後ニューヨーク市場終盤に向かって調整売りが入った。円もニューヨーク市場でゆっくり売り戻され、米株価と米金利の上昇を見ながら 112 円台後半まで戻った。結局、各主要通貨とも落ち着いてしまったが、気になるのは米国から「テロ支援国家」に再指定された北朝鮮の反応だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。